
海賊戦隊ゴーカイジャーVSシンケンジャー

ヘルタント

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

海賊戦隊ゴーカイジャーVSシンケンジャー

【Nコード】

N0694Z

【作者名】

ヘルタント

【あらすじ】

ゴーカイジャー第一話と同じです。

プロローグ レジェンド大戦

宇宙帝国ザンギヤックが地球に現れた。

その宇宙艦隊が攻撃を開始した。その時……。

34のスーパー戦隊が駆けつけてきた。その先頭に立つ者は……
秘密戦隊ゴレンジャーのアカレンジャーだった。

その後ろからゴレンジャーからゴセイジャーまでのスーパー戦隊が
やってきた。

アカレンジャー「みんな、行くぞ！」

『おう！！！！！』

ザンギヤックを次々と倒していくがなかなかきりが無い。

そこに……

シグナルマン・黒騎士ヒュウガ・デカスワン・デカマスター・マジ
マザー・ウルザードファイアー・黒獅子リオ・獣人メレ・ズバーン・
姫シンケンレッドが駆けつけた。

黒騎士「俺たちも協力します。」

アカレンジャー「すまない……。」

『はあ！！！！！！』

そしてアカレンジャーがみんなを集めた。

アカレンジャー「みんな、スーパー戦隊の力を一つにするんだ。」

スーパー戦隊命からがら地球をザンギヤックから救ったが……
それを代償にスーパー戦隊の力が失われてしまった……
それから数年後、その力を受け継いだのはとんでもない奴らだった……

第一章 レジェンド

ある日のこと・・・

ナビィ「レッツお宝ナビゲート」

マーベラス「トリ、いきなりどうした。」

ルカ「大いなる力ならさっさと手に入れよう。」

ハカセ「だね。」

ナビィ「サムラア~~~~イに気をつけろ」

ルカ「これってシンケンジャーの大いなる力でしょ。」

鎧「持ってますよね。」

アイム「ナビィ、壊れたのでしょうか。」

鎧「とにかく、行ってみましょう。」

街では・・・

丈瑠「なんで、俺が行かなきゃなんないんだよ・・・」

黒子に頼まれた買い物を嫌々いく丈瑠。

その時・・・ゴーミンたちが現れる。

丈瑠「あれは、ザンギヤック、いつぴt・・・そうだ変身できないんだ。」

そこに、ゴーカイジャー達が・・・

ゴーミン「ゴー。」

マーベラス「お前ら・・・」

鎧「アレは、志葉丈瑠さんだあ!!!!」

丈瑠「お前は何者だ。」

マーベラス「海賊だあ。」

レンジャーキーを取り出す。

『豪快チェンジ。』

鎧「ゴゝカイチェンジ」

丈瑠「アレは、ゴークイジャー！」

素早くゴーミンを倒すゴークイジャー。

丈瑠「お前らがゴークイジャーかあ。」

マーベラス「お前は何者だ。」

丈瑠「俺は、志葉丈瑠、侍戦隊シンケンジャーのシンケンレッドだった男さ。」

ルカ「シンケンレッドって逢わなかった？」

丈瑠「あれは、俺の母上だ。」

マーベラス「いいから早く大いなる力を渡せ。」

丈瑠「しかし、条件がある。」

鎧「サインください。」

マーベラス「なんだ。」

丈瑠「俺たちのレンジャーキーを返してくれないか。」

マーベラス「ふっ。お断りだ。」

ハカセ「ちよつと、マーベラス。」

ルカ「なんでよ。」

アイム「ルカさんも。」

ジヨー「鎧、しつこいぞ。」

鎧「だって・・・」

丈瑠「それなら、大いなる力は渡せない。」

ハカセ「これでいいですね。」

鎧「コレもどうぞ。」

ハカセは五人のレンジャーキーを、鎧はシンケンゴールドのレンジャーキーを渡した。

第二章 シンケンメンバーの日々（前書き）

ちなみに、本編と時系列は40話と41話の間の出来事です。

第二章 シンケンメンバーの日々

丈瑠「お前ら、すまないな。」

ハカセ「こういう時はお互い様だよ。」

アイム「これもどうぞ。」

アイムが渡したのは姫シンケンレッドのレンジャーキーをわたした。

丈瑠「コレは、母上のものだ。」

そのころメンバーは・・・

流ノ介は歌舞伎の舞台公演の真っ最中。

ことはは、京都で姉の看病をしている。

千明は、町をぶらぶらしている。

茉莉は、家事の勉強中。

源太はフランスで料理修行中。

鎧「丈瑠さんは、大変でしたよね。」

丈瑠「家臣の命を預かるの・・・」

マーベラス「へっ。俺と一緒にだな。」

屋敷に向かう途中に・・・

千明「あっ、丈瑠じゃん。」

丈瑠「千明、久しぶりだな。」

千明「ゴーカイジャーも一緒かよ。」

アイム「あの時は力をありがとございました。」

丈瑠「なんだ、知ってたのかよ。」

千明「まあな。」

茉莉「丈瑠。」

偶然町で見かける。

鎧「谷千明さんと、白石茉莉さんじゃないですか!。」

千明「こいつは誰だ。」

鎧「スーパ―戦隊を愛する男、伊狩鎧です。」

丈瑠「こいつはほつといて。これを受け取れ。」

丈瑠は千明と茉莉にレンジャーキーを渡し、吸収した。

ゴーミン「ゴー」

丈瑠「行くぞ、千明、茉莉。」

千明「おうよ。」

茉莉「また、よろしくね。」

マーベラス「俺たちも行くぞ。」

『一筆奏上!!』

『豪快チェンジ!!』

シンケンレッド「シンケンレッド、志葉丈瑠。」

シンケンピンク「同じくピンク、白石茉莉。」

シンケングリーン「同じくグリーン、谷千明。」

シンケンレッド「天下御免の侍戦隊。」

『シンケンジャー参る!!』

ゴーカイレッド「ゴーカイレッド。」

ゴーカイブルー「ゴーカイブルー。」

ゴーカイイエロー「ゴーカイイエロー。」

ゴーカイグリーン「ゴーカイグリーン。」

ゴーカイピンク「ゴーカイピンク。」

ゴーカイルバー「ゴーカイルバー！」

ゴーカイレッド「海賊戦隊ゴーカイジャー。」

シンケンレッド「力が戻ってる。」

シンケングリーン「やっぱり、こうでないとな。」

シンケンピンク「だね。」

シンケンジャーとゴーカイジャーでザンギヤックを倒しに向かった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0694z/>

海賊戦隊ゴーカイジャーVSシンケンジャー

2011年12月3日00時51分発行